

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来からの施設の基本理念は継続し、それ以外に地域密着型サービス事業所として、スローガンを掲げ取り組んでいる。 スローガン『地域に貢献し、地域と共に歩む事業所を 目指して』	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念は申し送りを始める前に必ず毎日読み上げ、日々理念の実践に取り組んでいる。	○ 社員に限らず、非常勤職員も午前と午後の引継ぎの際に基本理念を読み上げ、理念を浸透し、日々の業務において実践できるように取り組んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議（第2回目）において、スローガンに関する説明資料を入れたり、参加者（利用者家族や地域の代表者）に理解していただけるように取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時に声を掛け合ったり、野菜を頂いたり、施設のイベントに参加してもらっている。	○ 地域の方が気軽に立ち寄れる場所となるように努力していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会の方を施設のイベントに招待したり、施設内を見学して事業所の理解を深めている。 市内のロゼホールで行われる市民文化祭に作品を出展するなど、地域の行事にも参加している。	○ 地域密着型サービス事業所として、今後も地域の諸団体や行事などに積極的に参加し、地域に一員として活動していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>地域の清掃活動に参加したり、施設の行事やイベントに老人会や地域の方を招待している。</p>	○	<p>自社の能力を分析し、もっと地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>前回の外部評価結果は常勤職員は必ず目を通し、次回までに必ず改善するように取り組んでいる。</p>	○	<p>全職員が、自己評価や外部評価の結果を把握し、改善目的を共有し、改善に取り組める体制を構築したい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>利用者やサービスの実際については、資料を作成し、報告している。また、そこでの意見については、どのように取り組んだか結果報告をしている。</p>	○	<p>外部評価に対する報告、取り組み状況については、まだ運営推進会議で行ったことがないので、今後の開催で実施したい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>利用者の中に生活保護を受けている方がおり、市の担当者に相談する機会を持ち、サービス向上に取り組んでいる。</p>	○	<p>市の担当者にも運営推進会議に参加していただき、市との連携強化を図っていきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>現在入所中の利用者では、必要な方がいないため、特に対応していないのが現状である。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>虐待防止のポスターを貼ったり、一部の職員が介護支援専門員の資格取得のための勉強をする中で学ぶ機会を持つようになっている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	<p>現在年に4回、利用者の状況、施設のイベント、行事などの様子を新聞にてお知らせしているが、個別の生活報告等もわかりやすく伝えられるような取り組みをしていきたい。(写真やビデオの提供など)</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>運営推進会議に利用者の家族に参加していただき、苦情や要望、意見等を聴き、それらを運営に反映させるようにしていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の配置をユニットごとではなく、2ユニット両方に均等にシフトを組むことで、顔馴染みの職員を増やし利殖によるダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を掲示し、案内している。また、施設内研修のを行う際にも、職員の希望を聞いて講習内容を検討し実施している。(介護技術、口腔ケア、ケアプランについて)	○	現在も講師を招いた研修や施設内研修を実施しているが、今後も職員の技術向上、利用者のためになる支援を実施するために、研修回数を増やす等の対応を検討していきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常陸大宮市のグループホーム事業所同士で、協議会を設け、管理者や職員が定期的に参加している。	○	同業者の施設の見学や職員交流の場を作って交流を深めていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に2～3回、職員が順番に幹事を務め食事会を行っている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	努力や実績を把握し、年に1回の昇給を行っている。また業務に関連する資格取得を勧め、必要な研修やアドバイスを行い、向上心をもって働けるように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症の施設であるため、本人の要望が難しいケースが多いが、利用者の家族からセンター方式シートを利用して本人の生活歴や習慣、本人の要望等を調べ、できる限り受けとめるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでに、家族の困っていることや不安、求めていることをじっくりと話を聴く機会を必ず設け、利用者や家族にとってどのような対応が必要か確認し、受けとめるようにしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者だけでなく、介護支援専門員が利用者や家族の状況や要望を確認し、必要があれば意見やアドバイスをを行うように努め、利用者やその家族にとって何が良いのかを一緒に考えるようにしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所する前に、家族と一緒に施設にきていただき、雰囲気を知っていただけるよう工夫している。	○
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できることは可能なかぎり行ってもらいようにし、自立と尊厳をもって生活してもらいように努めている。職員も、利用者の過去の生活歴や経験を聴き、いろんなことを教わっている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者家族の畑で芋掘りを実施させていただいたり、入院のため退所となった後でも、お見舞いに行ったり、家族の要望を聴く機会を設け、一緒に本人を支えていく関係を構築している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所前の本人と家族の関係の理解に努め、各ケースに合わせた対応を図るように努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外であっても、家族からの要望や拒否がない限り、知人や馴染みの人がいつでも利用者に会えるようにしている。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	各利用者の性格や特徴を職員間で十分に理解できるように情報共有を行い、利用者同士の関係把握や孤立しないように配慮している。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ケースにもよるが、サービス利用時同様に行事やイベントの案内を出して参加してもらったり、今後の対応について相談に訪れる方も多く、たとえサービス利用が終了しても関係が維持されるように配慮し、対応している。	○	退所した利用者やその家族ともサービス利用時と変わらぬ関係構築と維持を図れるような仕組みを考えて生きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時のセンター方式シートによるアセスメントと入所後の利用者とのコミュニケーションの中で希望や意向の把握に努め、困難な場合であっても本人本位に検討している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のセンター方式シートによるアセスメントと家族との面談の中で利用者の生活歴やサービス利用の経過等の把握をしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各利用者ごとに1日の過ごし方や心身状態、有する力等がわかるように現状を介護記録に記入し、職員間で情報共有するように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員が中心となり、本人、家族、関係者から情報収集し、意見やアイデアを反映した介護計画の作成を行っている。	○
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	病院からの退院後や急な状態変化があった場合、見直し時期以外でなくても必要に応じて新たな介護計画を作成し、現状に即した新たな計画を作成している。	
671			毎月、定期ミーティングにおいて意見交換を行い、各利用者の介護計画の作成と支援内容の確認、意識統一を図っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実施チェック表と介護記録を個別に記録し、情報共有を図りながら業務の実践と次回の介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている		○	必要に応じて、本人・家族の要望に柔軟に対応できるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署による防火訓練の実施やボランティアによる紙芝居、レクリエーション、民謡鑑賞等を定期的に行い利用者の方に協力しながら支援している。	○	地域の小中学校の福祉現場体験の場として交流が図れるようになってきたので、これを継続し、もっと認知症高齢者や当施設の取り組みを知ってもらえるようにしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	今後、本人の意向や必要性に応じて、他のサービスを利用するための支援をしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	今後、本人の意向や必要性に応じて、地域包括支援センターと協働していけるようにしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	今後、利用者の更なる高齢化が予測されるので、終末期に向けた対応や連携強化について知識をつけて取組んでいきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	別の施設、病院に入院する場合、必ず情報提供書 を作成し、情報交換を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	他の利用者の誇りやプライバシーを侵害しない限 り、言葉かけや対応時には利用者を尊重した対応 を図っている。 また、記録物は社外持ち出し禁止とするなど個人 情報の取り扱いも配慮している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよ うに支援をしている	思いや希望を表せるように職員側から利用者に働 きかけている。例えば、毎日の楽しみである食事 の献立作成にあたっては、利用者の望むメニュー を聴いてそれを反映するなど、自己決定を可能な 限り尊重した対応を心掛けている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	1人ひとりのペースに合わせて過ごせるように努 めている。	○	利用者の個別対応を勧め、本人本位の立場から介 護支援できるような体制について検討していき たい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで けるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれができるように配慮してい る。ほぼ寝たきりの方に対しても眉を書くなどの 取り組みも行っている。理容・美容に関しては、 2ヶ月に1度利用者の家族が経営する美容院店に依 頼して散髪を実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>お酒やタバコなど、本人の嗜好や希望に沿った生活が可能になるような支援方法を検討していきたい。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>施設における個別の役割を増やし、施設で生活する生きがい、生きることへの意欲を高められるような支援を考えていきたい。</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	イベント時に模擬店を出店し、利用者自身で買い物をしてもらうなどの取り組みを行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	遠足、花見等の行事やイベントで全員が外出できる機会を作るように配慮している。 個別には、利用者のADLに合わせて施設の近辺を散歩するなどの支援をしている。	○	本人の希望を確認しながら、施設外の活動参加や買い物等が実施できるようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ロゼホールでの音楽鑑賞やよさこい祭の見学等を行うなどの支援をしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を作成して送ったり、家族に連絡したい時には自由に電話できるように対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は指定せず、いつでも利用者に会えるよう配慮し、来所際にはお茶やお茶菓子を出すようにして居心地よく過ごせるように工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者と常勤職員に対しては、身体拘束となる行為を理解するように情報共有し、非常勤職員の指導、監督を実施して身体拘束しないケアに取り組んでいる。また、身体拘束が必要な利用者に関しても、実施にあたり必ず家族の同意書をもらうことにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はなく、日中も鍵をかけない対応をとっている。 また、新館の1Fには、徘徊探知センサーを取り付けているが、現在は使用せずに対応できている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、利用者の所在や様子については職員間で声を掛け合い確認している。 夜間は、見回りを行い安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の状態に応じて物品の管理を行っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	本人の身体状態、認知症の進行状況に応じて、歩行時の見守り、付き添いを行って転倒防止に努めたり、誤嚥や窒息が起きないように食事時も配慮している。また、徘徊による行方不明が起きないように日頃から注意して所在確認を行っている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	基本的には、常勤の正看護師が緊急時対応の中心となっている。応急手当や初期対応も一部の職員が研修に参加するなどの取り組みを行っているが、全ての職員が訓練を定期的には行っていない。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災発生を想定とした避難訓練を年2回実施している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクについて家族に説明し、対応についても事前に相談して対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝、夕の2回バイタルチェックを全員実施している。体調変化等を発見した場合、管理者、看護師に報告し、指示を仰ぐようにしている。情報共有のために記録にも残すように努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬が変わる際には、引継ぎノートに記録、報告して職員全員が把握できるようにしている。	○	薬に関する知識を職員全体で高めていき、誤薬等に対する意識向上を図りたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食前に口腔体操や座位で行える体操を実施している。他にもレクリエーション時にも体操をゲームやすごるくの内容に取り入れて身体を動かすようにしている。また、水分補給にも注意するなどの配慮をしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアについては、歯科衛生士に講師を依頼して講習を受けるなど職員の介護技術の向上に努めている。毎食後の口腔ケアは能力に応じて実践し、支援が必要な方はガーゼ等を使って清潔保持を図っている。また、1週間に1回ポリデント洗浄を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身長、体重、疾病状況などから、個別に必要な栄養摂取量、水分量を計算、設定し、1日を通じて確保できるように支援している。また、残食量も記録して摂取できているかの目安にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成して実践している。	○	感染症発生時の対応について、マニュアル通りに行動できたかを反省し、今後の対応に活かしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を使用し、作り置きはせず、買い置きも最小限にするなどの対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	車イスの方も出入りがしやすいように、スロープを設けている。親しみやすい雰囲気になるように花木を植えるなどの工夫もしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関：季節の花、植木等を配置して、施設独特の臭いにも配慮している。 食堂：季節の花、植木を飾り、ラジカセにより音楽を取り入れ、ブラインドで光の調整をしている。 トイレ・浴室：特に清潔の保持に気を配っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同士で過ごせるようにテーブル席にしている。また、ソファなどを設置して、思い思いの場所で過ごすことができるよう配慮している。	○	個別に落ち着く場所が持てるような配慮と空間を検討していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	○	施設周りでは果物や野菜等を育てており、利用者と一緒に収穫して料理するなどの活動をしていきたい。また、育てる活動もADLにあわせて実施していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

事業所の基本理念を管理者、職員全員で心がけて勤務している（引継ぎ時には必ず読み上げてから業務に入るようにしている）

【カサブランカ 基本理念】

- 一、私達は、利用者あ安心して暮らしていける場所を影響し、アットホームな環境作りを目指します。
- 一、私達は、利用者が充実した生活が送れるよう、需要・共感の姿勢で支援します。
- 一、私達は、笑顔でゆとりある介護を目指します。